



ミクロネシア NEWS

2020年1月16日第16号
JICA 青年海外協力隊
ミクロネシア連邦派遣
小学校教育隊員
磯崎 春美 (中野区立江原小学校)

「パラカップマーウ！」(ポンペイ語の新年を祝うことば)

江原小学校のみなさん、明けましておめでとうございます。2020年の目標は立てましたか。私の目標は英語をもっと勉強して、世界中の人と話すことです。ポンペイ語の習得も頑張りたいと思います。



さて、去年の年末に**マーシャル諸島共和国**というミクロネシア連邦のお隣の国に旅行に行ってきました。今回の旅の目的は、協力隊の友人に会うことと、文化の違いを体験することです。マーシャル諸島はミクロネシア連邦の右隣に位置する国で、今回はイバイ島、マジュロ島を訪れました。
(←ポナベと書かれているのが現在活動しているポンペイ島です。)

最初に訪れた**イバイ島**はクワジェリン空港から船に乗って20分ほどのところにある島です。長さ1.5km、幅200mの細長く小さい島に1万2000人もの人々が暮らしています。太平洋の中でも高い人口密度で、狭い場所に密集して家が建てられています。土地が狭く、また山もないために農業や産業はできません。国益のほとんどはアメリカからの援助によってまかなわれています。

それでもイバイ島に人が集まるのは、クワジェリンにある米軍基地での仕事があるからです。クワジェリンもマーシャル諸島共和国の土地ですが、アメリカが土地を借りて軍事基地として使用しています。基地内にはアメリカ人居住区があり、整備された道路、きれいな家、なんと映画館やボーリング場もあります。軍事基地の一部のため撮影は禁じられているので写真を載せることはできませんが、まるでリゾート地のような光景が広がっていました。空港や基地にある施設で働く人がイバイ島に多くいます。(クワジェリンには米軍関係者しか住めません。)



イバイ島の港、フェリーでクワジェリンと行き来します。



小学校の校舎



密集した住居の間にある通路



トタン屋根の家が密集して建っていました。



イバイの町並み

イバイのクリスマス



24、25日にイバイを訪れたので、クリスマスで盛り上がる町を見ることができました。マーシャルではビートダンスという踊りが有名で子どもから大人まで足でステップを踏んで踊ります。地域ごとに分けられたチームがいくつもあり、そのチームによって音楽や踊りはまったく違います。私の友人も現地のチームで踊っていました。11月から練習を初めて、12月の本番まで毎日のように練習を行います。ビートダンスはイバイの人にとって誇りであり、なくてはならない伝統行事だそうです。

またイバイにはフィリピンからの労働者も多くいます。ほとんどは医療関係者でその他にも美容院で働いている方がいました。知り合ったフィリピンの方はとても優しく、クリスマスパーティーにも招待してくれました。異国で生活する苦勞を知っている方の優しさはいつも身に沁みます。

協力隊の友人はイバイにただ一つある病院で栄養士として働いています。糖尿病や肥満が多いイバイの人へ正しい栄養の知識を教えることや、病院食の改善に取り組んでいました。



フィリピンの方のクリスマスパーティーへ



友人の活動先、イバイ病院

マーシャル諸島共和国の首都、マジュロへ



その後イバイを離れてマジュロへと向かいます。マジュロはマーシャル諸島の首都で、一番多くの人が集まる場所です。マジュロの海はサンゴが有名で、山が連なるようにサンゴが群生しています。町の中心にはお店や車も多く、とてもにぎわっている印象でした。友人とは離島でゆっくりと過ごし、年越しのパーティーに参加しました。路上ステージでのバンド演奏や、多くの出店も出てとても盛り上がっていました。日本の夏祭りを思い出しました。



海の中のサンゴの山とマジュロの離島



年越しパーティー、たくさんの人でにぎわっている

マジュロでも同じ小学校教員の協力隊の仲間が活動しています。冬休み期間のため活動先の見学はできませんでしたが、取り組んでいる活動や苦勞していることをお互いに話すことができました。今回の旅では、近隣国の人々の文化や暮らしの違いを学び、人のあたたかさや自然の豊かさを感じることができました。